

神戸大学の留学生と「神戸市役所24階展望ロビーから旧居留地を歩こう会」開催

関西支部事務局

11月7日(土)午後、留学生2名と会員3名、事務局1名、神戸大学の先生1名の計7名で、「神戸市役所24階展望ロビーから神戸旧居留地を歩こう会」を開催しました。

新型コロナ対策のため、留学生の募集定員を5名に減らし、マスクの着用、受付時に検温と消毒に協力していただきました。また、無線ガイドシステムを利用することにより、ソーシャルディスタンスの確保、説明時の飛沫(ひまつ)防止を図りました。

1868年(慶応3年)に外国人に対しての居住・営業が許可され、神戸港の開港と同時に設けられたのが、居留地で、その後、条約改正により廃止・返還され、旧居留地と呼ばれました。旧居留地には神戸の歴史を感じることもできるたくさんの史跡や石碑が点在しています。



<東遊園地内のモニュメント>

まず、神戸市役所24階展望ロビー(地上100mの高さ)から、タウンガイドKOBÉ24ボランティアの皆さんに東・南・西・北各方面を俯瞰(ふかん)して案内していただきました。短時間で神戸の特色を理解できるので、留学生は真剣なまなざしで聞いていました。

東遊園地では「慰霊と復興のモニュメント」「1.17希望の灯り」といった阪神・淡路大震災関連や外国人に関するモニュメントを見学しました。その後マップを片手に旧居留地辺りの史跡やレトロビルを散策し、三宮神社に立ち寄り、元町商店街から、南京町にて解散しました。

参加した留学生が神戸の文化や歴史に触れるきっかけとなるよう願っています。



<集合写真>